



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 棚卸資産の計算

5

## 1 棚卸資産の数量計算

会計では、在庫品のことを棚卸資産(inventory)と呼ぶ。棚卸は、在庫品の数を数えたり、その原価や売価を記録する作業のことである。したがって、棚卸資産というのは、棚卸によって有高が確定する資産であるといつてもよい。

10

棚卸資産のなかには、販売する目的で保有するものと、営業活動において消費する目的で保有するものがある。いずれの場合も、決算にあたって、払出原価（売上原価または消費原価）を計算する必要が出てくる。

棚卸資産の払出原価は次のように計算される。

$$\text{払出原価} = \text{払出単価} \times \text{払出数量}$$

15

もちろん、払出単価が異なるごとに、その払出単価とその単価での払出数量を掛け合わせ、そうした金額を足しあわせる必要がある。

棚卸資産の数量計算の方法には、(1) 繼続記録法と(2) 実地棚卸法がある。

20

### 1.1 繼続記録法

継続記録法とは、棚卸資産の種類ごとに、受扱数量を記録する方法である。受扱数量だけでなく、受扱金額も記録することもある。

もし、棚卸資産の受払いが完璧に記録できていれば、継続記録法を使うことで、実際に棚卸しをしなくとも、棚卸資産の有高を確定することができる。これを帳簿棚卸ということがある。

.....

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授太田康広が複式簿記の演習問題として作成した。ケース中の企業は架空のものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 太田康広 (2009年1月作成)